

參考資料

参考資料 1 策定委員会名簿

委員長：越澤 明

	所 属	氏 名
1	北海道大学 名誉教授	越澤 明
2	丸岡城桜まつり振興会 会長	岩田 龍見
3	福井県立丸岡高等学校 講師	竹吉 睦
4	一般社団法人丸岡城天守を国宝にする市民の会 理事長	大濃 孝尚
5	丸岡地区区長会 前会長	牧野 恵子
6	丸岡地区区長会 現会長	荒木 孝浩
7	一般社団法人坂井青年会議所 理事	渡辺 展幸
8	一般社団法人 DMO さかい観光局 業務本部長	石川 基重
9	坂井市産業政策部長	八杉 茂樹
10	坂井市総合政策部次長 兼 企画政策課長	三上 寛司
11	坂井市文化課長 兼 みくに龍翔館長 兼 丸岡城国宝化推進室長	高倉 尚美
12	坂井市建設部次長 兼 都市計画課長	北出 泰章

(令和3年8月現在)

参考資料 2 策定委員会設置要綱 旧要綱、新要綱

〔旧要綱〕

一筆啓上茶屋再整備基本計画策定委員会設置要綱

令和 2年 5月 1日
坂井市告示第101号

(設置)

第1条 一筆啓上茶屋再整備の指針となる基本計画の策定に関し、一筆啓上茶屋再整備基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、計画の策定に関する事項を所掌する。

2 委員会は、前項の規定により調査及び検討した結果を市長に報告する。

(組織)

第3条 委員会は、12人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は指名する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 観光関係団体等の役職員
- (3) 地域活動に取り組んでいる者
- (4) 市職員
- (5) その他市長が必要と認める者

3 委員の任期は、委嘱又は指名の日から前条に規定する所掌事項の終了の日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故がある、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員会は、計画の策定に関し専門的な指導助言を得るため、アドバイザーを置くことができる。

5 委員長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

6 第1項の規定に関わらず、最初の委員会は市長が招集する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、産業環境部観光産業課において処理する。

(その他)

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、令和2年5月1日から施行する。

〔新要綱〕

丸岡城周辺整備基本計画策定委員会設置要綱

令和2年9月15日
坂井市告示第218号
令和3年2月1日告示第20号
令和3年4月1日告示第195号

(設置)

第1条 丸岡城周辺整備の指針となる基本計画の策定に関し、丸岡城周辺整備基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、丸岡城周辺整備基本計画の策定に関し、次の事項を調査及び検討する。

- (1) 丸岡城周辺の賑わい創出と観光振興に関すること。
- (2) 霞ヶ城公園及び周辺整備に関すること。
- (3) 丸岡城址の復元活用に関すること。
- (4) その他、丸岡城周辺の地域振興に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、13人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は指名する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 観光関係団体等の役職員
- (3) 地域活動に取り組んでいる者
- (4) 市職員
- (5) その他市長が必要と認める者

3 委員の任期は、委嘱又は指名の日から前条に規定する所掌事項の終了の日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員会は、計画の策定に関し専門的な指導助言を得るため、アドバイザーを置くことができる。

5 委員長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

6 第1項の規定に関わらず、最初の委員会は市長が招集する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、産業政策部観光交流課において処理する。

(その他)

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この告示は、令和2年9月15日から施行する。

附 則（令和3年2月1日告示第20号）

この告示は、令和3年2月1日から施行する。

附 則（令和3年4月1日告示第195号）

この告示は、令和3年4月1日から施行する。

参考資料 3 策定委員会の経緯

2020年（令和2年）6月に「一筆啓上茶屋再整備基本計画策定委員会」を立ち上げ、老朽化した一筆啓上茶屋（以下「丸岡観光情報センター」）の移転先を検討する中で、委員から「丸岡観光情報センターの移転場所や盛り込む機能について検討する前に老朽化している歴史民俗資料館や霞ヶ城公園管理事務所等を含めた霞ヶ城公園全体および内堀五角形内の整備を考える必要がある。」との意見が多く出ました。

その結果、同年9月に「丸岡城周辺整備基本計画策定委員会」と委員会名称を変更し、丸岡観光情報センターだけではなく、内堀五角形内の公共施設の在り方および霞ヶ城公園を含む丸岡城周辺の整備について検討していくこととなりました。

〔丸岡城周辺整備基本計画策定業務経緯〕

令和2.05.01（金）	一筆啓上茶屋再整備基本計画策定委員会設置要綱の制定
令和2.06.11（木）	第1回一筆啓上茶屋再整備基本計画策定委員会
令和2.09.15（火）	設置要綱を丸岡城周辺整備基本計画策定委員会設置要綱に改定
令和2.09.25（金）	第2回丸岡城周辺整備基本計画策定委員会
令和2.12.01（火）	丸岡城周辺整備基本計画策定業務委託プロポーザル審査会 <ul style="list-style-type: none"> ・審査の結果、受託者を決定 PTP・TIT・ヒヤッカ共同企業体
令和2.12.21（月）	丸岡城周辺整備基本計画策定業務「業務委託契約書」契約締結
令和2.12.23（水）	第3回丸岡城周辺整備基本計画策定委員会
令和3.02.04（木）	丸岡城周辺整備基本計画策定事業に係る経過報告 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局の観光産業課長から委員長へ依頼 ・委員長から市長・副市長・教育長に経過報告
令和3.02.26（金）	第4回丸岡城周辺整備基本計画策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告書を決定 ・委員長・副委員長から市長・副市長へ提出
令和3.03.08（月）	丸岡城周辺整備基本計画策定業務「丸岡地区選出議員への説明」
令和3.03.26（金）	丸岡城周辺整備基本計画策定業務「業務委託契約変更書」契約締結 <ul style="list-style-type: none"> ・変更後の業務委託期間：令和2.12.22～令和3.8.31
令和3.04.22（木）	第5回丸岡城周辺整備基本計画策定委員会
令和3.05.10（月）	坂井市議会定例協議会にて協議 <ul style="list-style-type: none"> ・協議事項：丸岡観光情報センターの移転先について
令和3.05.26（水）	第6回丸岡城周辺整備基本計画策定委員会
令和3.06.04（金）	令和3年6月定例議会：補正予算議案提出
令和3.06.17（木）	坂井市議会産業建設常任委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・市議会議長の要請で、越澤委員長が参考人出席 ・基本計画策定について説明 ・補正予算議案を全員賛成可決
令和3.06.25（金）	令和3年度坂井市一般会計補正予算（第2号）全員賛成可決
令和3.07.28（水）	第7回丸岡城周辺整備基本計画策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・協議事項：丸岡城周辺整備基本計画原案を決定
令和3.08.23（月）	第8回丸岡城周辺整備基本計画策定委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・協議事項：丸岡城周辺整備基本計画を決定

参考資料 4 丸岡藩・丸岡城・霞ヶ城公園の略年表

文責 越澤 明

1575年（天正3年）織田信長、越前国を平定し、越前12郡の国割りを行う。柴田勝家は8郡49万石、前田利家、佐々成政、不破光治の府中三人衆は2郡10万石、金森長近、原長頼は大野郡10万石、武藤舜秀は敦賀郡の領主となる。柴田勝家の甥、柴田勝豊は4万石の領地、豊原寺の城を守備。

1576年（天正4年）柴田勝豊、丸岡城を築城し、豊原寺の城から移る。

本能寺の変、賤ヶ岳の戦い、関ヶ原の戦い、などで、越前国内の領主、各地の城主が、たびたび変わる。

1601年（慶長6年）結城秀康、越前国全体、68万石を領地として入封、国主大名、初代越前藩主となる。越前藩の家老今村盛次が2万5500石で丸岡城主。

1613年（慶長18年）江戸幕府、本多成重に越前藩の附家老を命じ、4万3300石で丸岡城主。

1624年（寛永元年）越前藩主第2代、松平忠直が改易。越前藩が福井藩、大野藩、勝山藩、丸岡藩などに分割された結果、丸岡藩4万6300石が立藩。本多成重が初代丸岡藩主、丸岡城下町の建設開始

1624年～44年（寛永年間）この時期に丸岡城の天守が建てられる。

1695年（元禄8年）丸岡藩主第4代の本多重益が改易、本多家の統治が終わる。糸魚川藩主の有馬清純（永純）、丸岡藩5万石の藩主として入封。以後、幕末まで有馬家が統治。

1869年（明治2年）版籍奉還。丸岡藩主第8代の有馬道純、丸岡藩知事に任命。

1871年（明治4年）廃藩置県。有馬道純、丸岡県知事に任命、免官。有馬道純、東京永住を命じられる。稽古場跡などが民間払い下げ、升形土手が撤去。

1872年（明治5年）丸岡城郭、天守、櫓、城門、県庁、二ノ丸御殿、土堀など民間払い下げ、入札。

1884年（明治17年）丸岡城天守、民間に払い下げ。

1889年（明治22年）町村制の施行により、丸岡町が誕生。

1901年（明治34年）丸岡城天守、民間から丸岡町に寄附され、丸岡公会堂となる。

1922年（大正11年）丸岡城天守、基礎、石垣を修理する、翌年完了。

1929年（昭和4年）国宝保存法の制定。1947年までに全国の24城が国宝に指定。国宝保存法では、現在の国宝と重要文化財を合わせた概念を「国宝」として指定（いわゆる旧国宝）。

1934年（昭和9年）丸岡城天守、国宝に指定。

1940年（昭和15年）丸岡城天守、解体大修理を開始、1942年に竣工。

1948年（昭和23年）福井地震、震源は丸岡町。丸岡城天守は倒壊。

1949年（昭和24年）法隆寺火災を契機として、文化財保護法が制定される。旧国宝はすべて重要文化財となり、その中から特に価値が高いものが国宝に指定される（いわゆる新国宝）。

1951年（昭和26年）丸岡城天守、文化財保護法により国の重要文化財に指定。丸岡城天守の残存保存工事が施行され、1955年に工事完了。

1960年代、福井地震の復旧事業で、丸岡城周辺の道路が拡幅・新設される。

1979年（昭和54年）霞ヶ城公園の整備完了、丸岡城築城400年記念祭。

1990年（平成2年）霞ヶ城公園、「日本さくら名所100選」に認定。

2006年（平成18年）霞ヶ城公園、「日本の歴史公園100選」に選定（選定委員長、越澤明）。

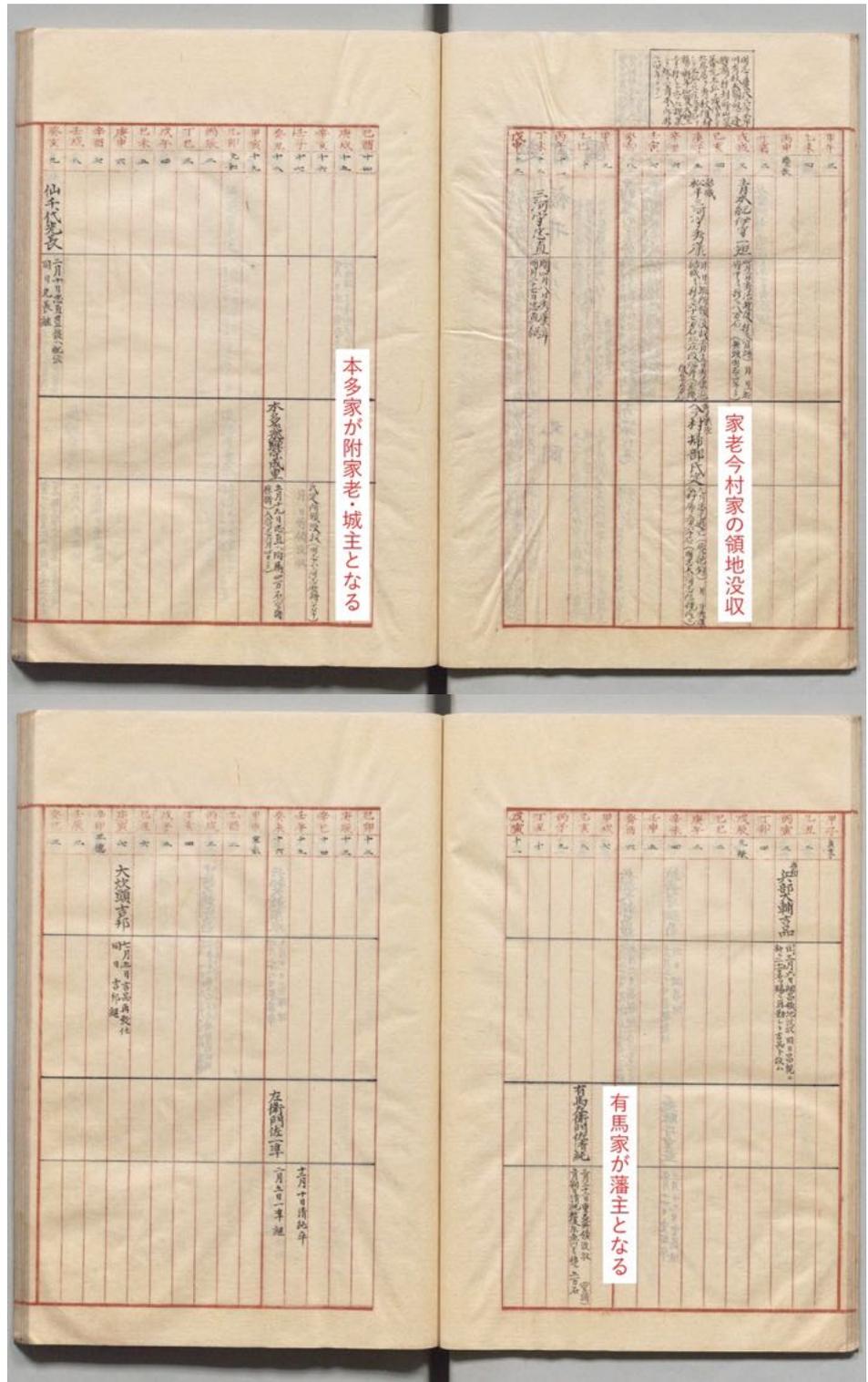
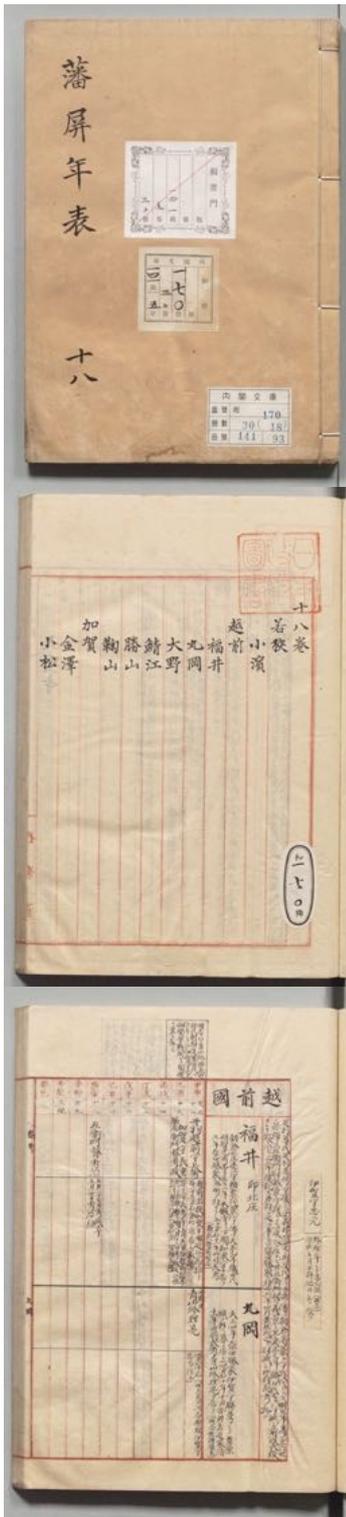
2020年（令和2年）坂井市長、丸岡城周辺整備基本計画策定委員会を設置。

2023年度末（令和6年3月）北陸新幹線の金沢・敦賀間は、1年遅れで、開業予定。

2024年（令和6年）丸岡藩の立藩から400年。

出典：『藩屏年表～若狭・越前・加賀』（旧江戸幕府文書、内務省地理局編、明治16年、国立公文書館所蔵）、『福井県史年表』（福井県文書館 HP）、『福井県史 通史編』（福井県文書館 HP）、『丸岡町史』（丸岡町教育委員会、昭和42年）、『丸岡城略史』（丸岡城下を考える会、平成11年第2版）、をもとに作成。

藩屏年表²⁴ (旧江戸幕府文書、内務省地理局編、国立公文書館所蔵)



²⁴ 赤文字加筆

参考資料 5 丸岡城下町絵図

編集・執筆 越澤 明

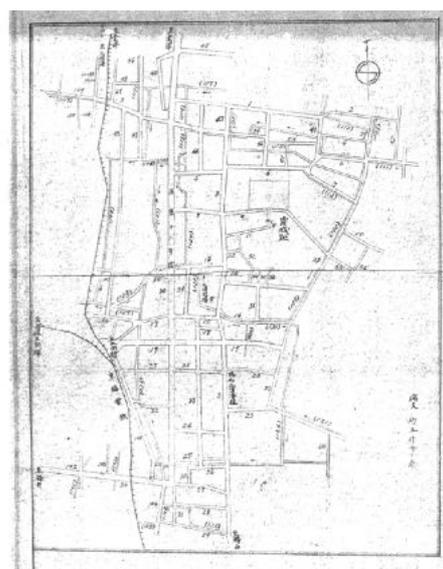
掲載頁	図番号	図名称
66 頁	1	現代図
67 頁	2	1946 年航空写真
68,69 頁	3	広島藩 諸国当城之図 越前 丸岡
70 頁	4	明治 4 年陸軍省城絵図 丸岡城郭図
71 頁	5	明治 4 年陸軍省城絵図 丸岡城郭図 (寸法)
72 頁	6	明治 7 年写し 丸岡城の測量図
73 頁	7	明治 4 年陸軍省城絵図と他の地図の対比
74 頁	8	江戸幕府 越前国丸岡城之絵図 (城下町)
75 頁	9	江戸幕府 越前国丸岡城之絵図 (内堀周辺)
76,77 頁	10	丸岡藩 越前丸岡城図
78 頁	11	加賀藩 諸国居城之図 丸岡城
78 頁	12	松江市蔵 越前丸岡城図
79 頁	13	岡山藩 越前丸岡城図
80 頁	14	福井藩 越前丸岡城図

図1. 現代図



(上図) 全国自治体の都市計画部局では航空写真測量で縮尺 2500 分の 1 都市計画図 (白図) を作成し、用途地域や都市計画道路などを記載し、都市計画・建築行政の基礎情報としている。この都市計画図に赤字で南堀推定線の長さ、南東と南西の角度を記入した。

(右図) 福井地震の震災復旧事業の文書は福井県文書館で僅か2件保存されている。本図はその保存文書に含まれている図面である。



福井地震の震災復旧後の道路図²⁵

²⁵ 出典：『県史収集文書 区画整理設計書 昭和 24 年度-昭和 25 年度』より「丸岡町都市計画整地工事の設計並びに実施承認について」の一部 (1951 年) 福井県文書館蔵

図2. 1946年航空写真²⁶

連合国（GHQ）の統治期に米軍が日本全土の航空写真を撮影した。現在、国土地理院が所蔵・公開している。旧丸岡町では数時点、撮影されている。
 本写真は1946年撮影で、1948年福井地震の前の丸岡町の姿。内堀の埋め立てを除けば、道路は明治時代のままであり、水路も判読できる。1950年代に震災復旧で道路が拡幅され、農地の宅地化が進行する。

²⁶ 提供：国土地理院 1946年（昭和21年）10月10日米軍撮影 福井地震前

図3. 広島藩 諸国当城之図 越前 丸岡²⁷





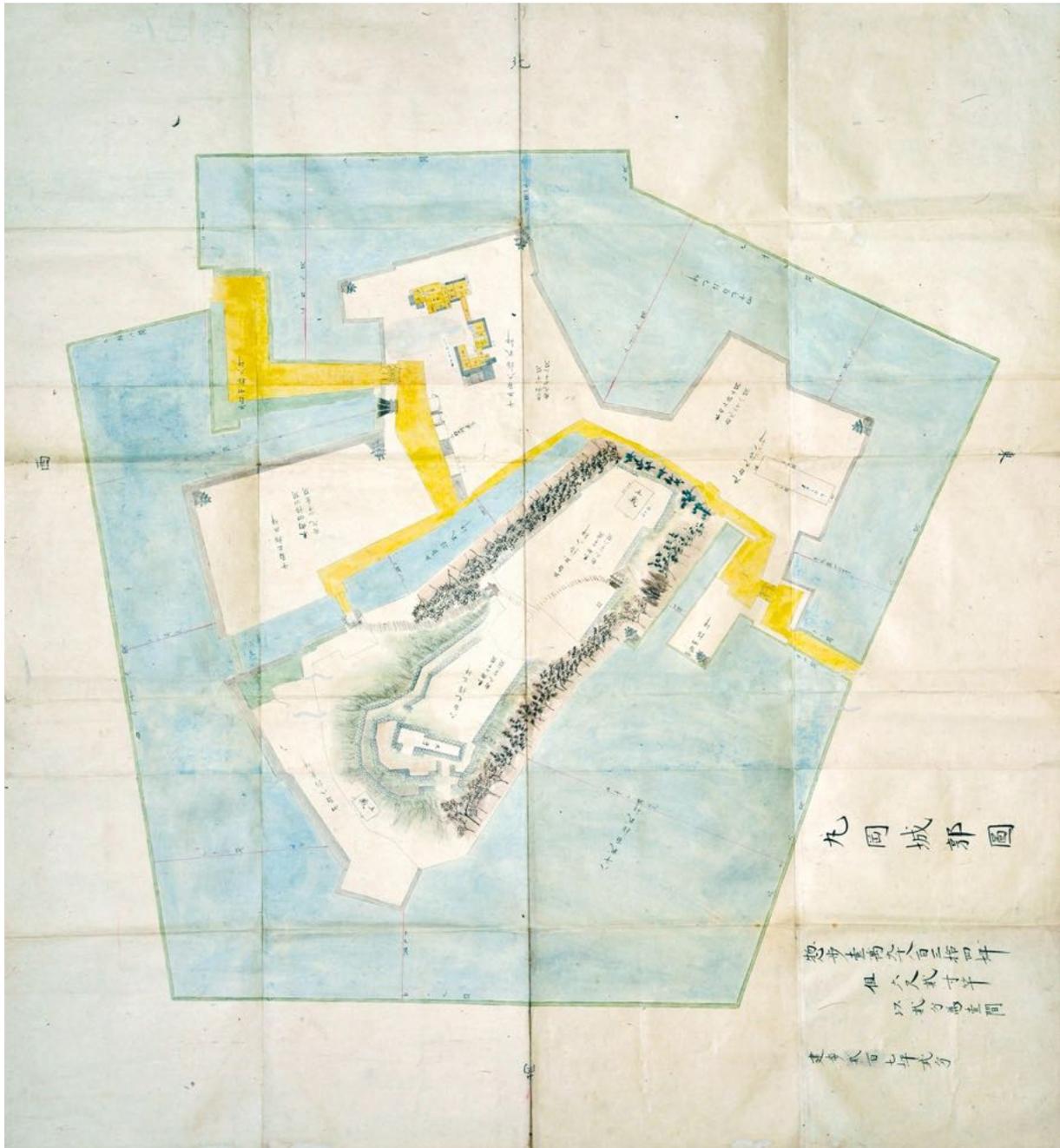
内堀周辺拡大

本図は非常に重要な図面。その理由は丸岡城下町の設計図、計画図と言えるからである。

- ① 内堀、中堀、外堀（総構え）という三重の堀割の考え方。
- ② 加賀藩への備えを重視。北側は堀割と武家地で固めて、南側に町人地を置く。
- ③ 福井道、竹田道、三国道と金津道、長畝口に城門を設け、鉄砲同心など下級武士を配置（同心町、小人町）。
- ④ 藩主の菩提寺（本光院）と他の寺（寺町）は明確に区別。本光院は外堀に面し、竹田口と一体的に配置。
- ⑤ 町人地に背割線（敷地境界と下水と推定）がある。
- ⑥ 中堀の要所に土手（升形）2箇所、厩。長畝口は曲がり道と堀割で厳重に。
- ⑦ 西門が裏門との記載。重要箇所の誤記は考えにくいので、築城当時の正門（追手門）は東門であった可能性もある。
- ⑧ もし東門が正門であった場合は、東門～東の土手～本光院は藩主が通るルート。町人地が少ないことと符合。

²⁷ 出典：浅野文庫「越前 丸岡」（『諸国当城之図』）広島市立中央図書館蔵 p68 赤文字「厩」「堀」「土手」「金津道」を加筆

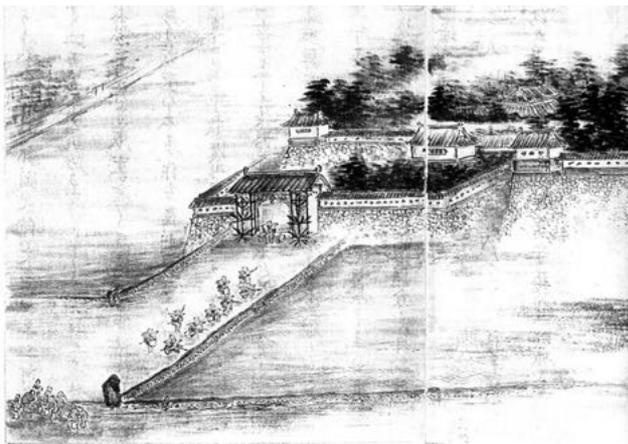
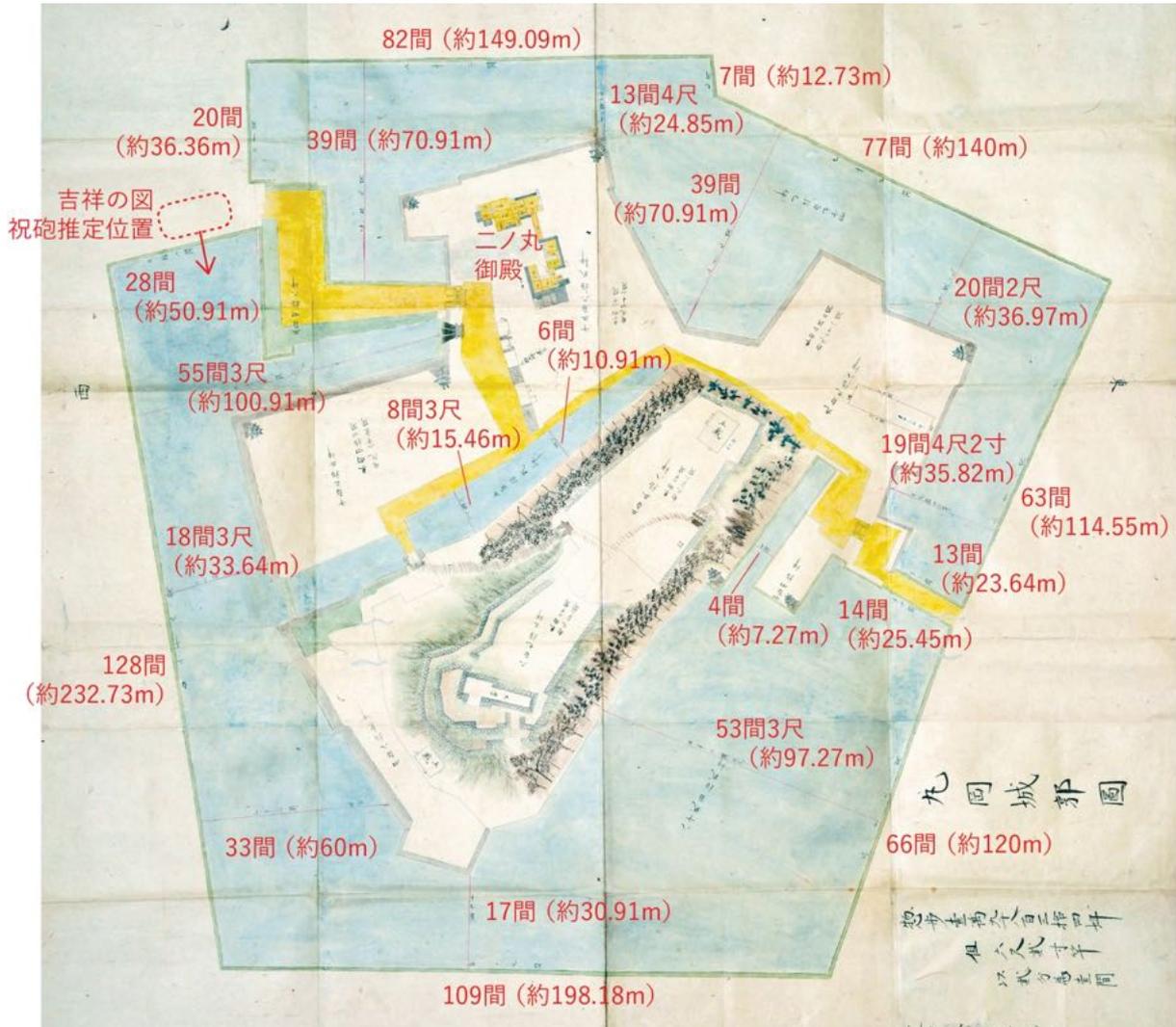
図4. 明治4年陸軍省城絵図 丸岡城郭図²⁸



明治政府は全国の城郭（建物、土地、堀）を民間売却するため、台帳となる地図を作成した。地図作成は陸軍省が担当し、近代測量技術が導入されているため、城郭が取り壊される直前の正確な姿が記録されている。本地図は原図、写しを含めて、国立公文書館、全国都道府県文書館では所蔵されていない。陸軍省城絵図コレクションはフランスに流出していたが、民間の富原道晴氏が購入し、近年、書籍化した。フランスのオークションに出た陸軍省絵図は、全国の売却対象城郭のうち大凡7割であり、それ以外の3割は行方不明である。丸岡城は現存図面に含まれている。本図によって、明治初期の丸岡城の姿、堀割の正確な長さや位置、存在していた櫓が判明する。また、二ノ丸御殿が図示されており、間取りまで判明する。幕末・明治初期の二ノ丸御殿に関する初資料として、本図の史的価値は高い。

²⁸ 出典：「丸岡城郭図」（『陸軍省城絵図』）しろはく古地図と城の博物館富原文庫蔵 画像提供：戎光祥出版株式会社 p71 赤文字加筆

図5. 明治4年陸軍省城絵図 丸岡城郭図（寸法）



吉祥の図²⁹

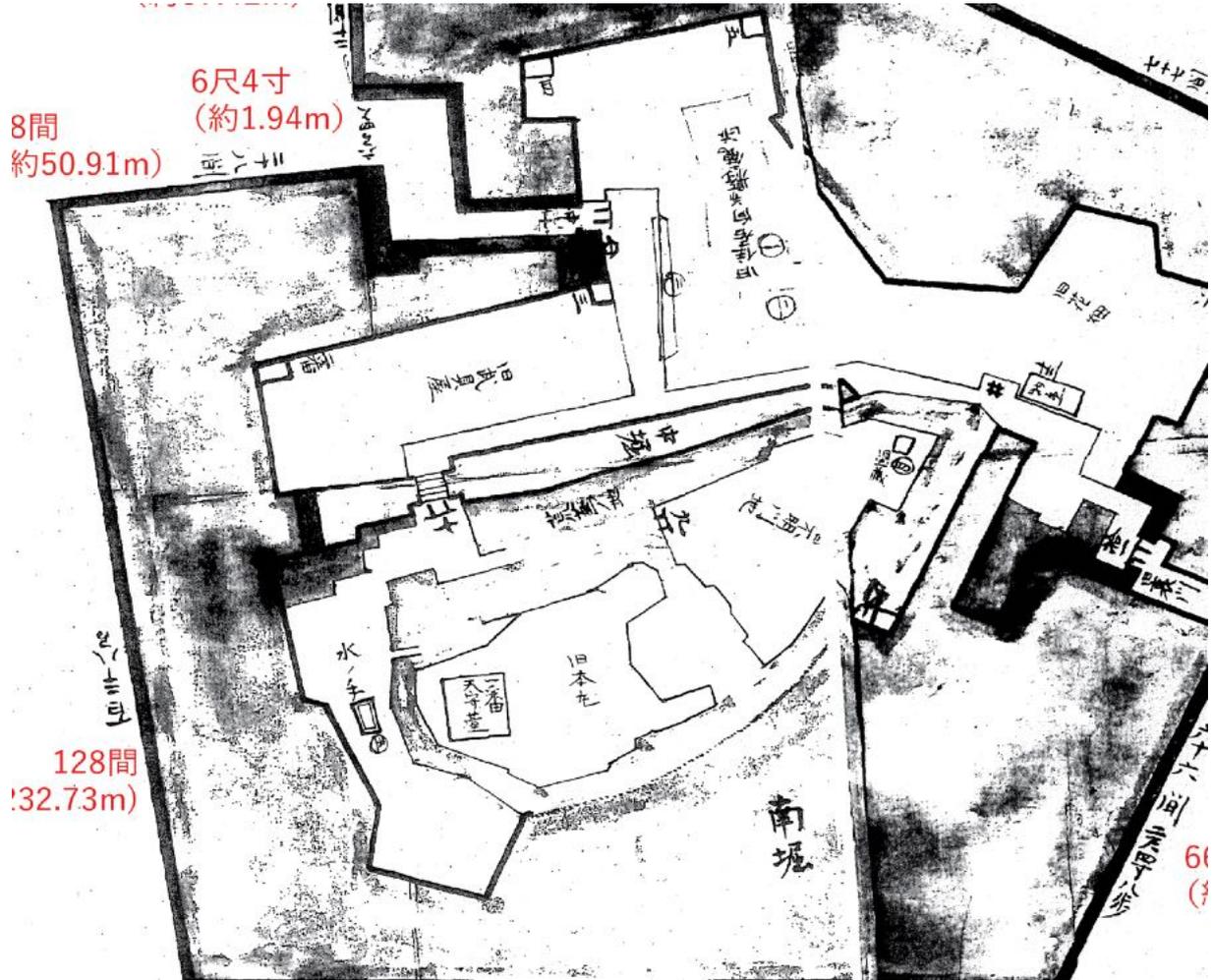
（上図）明治4年に陸軍省が作成した丸岡城郭図と現代図は、城山に合わせて両図を重ねると一致する箇所が多く、整合性が高い。明治4年図に記載された尺貫法の寸法とメートル法に換算した数値を加筆した。

（左図）有馬家時代の丸岡藩は毎年元旦、表門（追手門）前で祝砲を撃つ行事を実施した（吉祥と称する）。左の絵はその行事を描いており、表門（追手門）付近を描いた現存唯一の資料である。

絵の作者は山田介堂（1869年～1924年）、丸岡藩の上級武士の家に生まれ、明治期の著名な日本画家。本図は江戸時代に作成された絵を写した可能性がある。

²⁹ 出典：水崎亮博氏提供（宮本久著『城下町丸岡の昔と今』2007年（平成19年），私家版）

図6. 明治7年写し 丸岡城の測量図³⁰



○	元懸
○	回廊建物
○	長屋
○	本丸土蔵
○	水手土蔵

一	天守
二	西櫓
三	南櫓
四	西櫓
五	土櫓
六	花畑櫓
七	山下櫓
八	不明門
九	豊原門
十	石橋門
十一	東門
十二	西門
十三	物置
十四	鐘樓
十五	堀廻

方六尺六寸
九寸五分

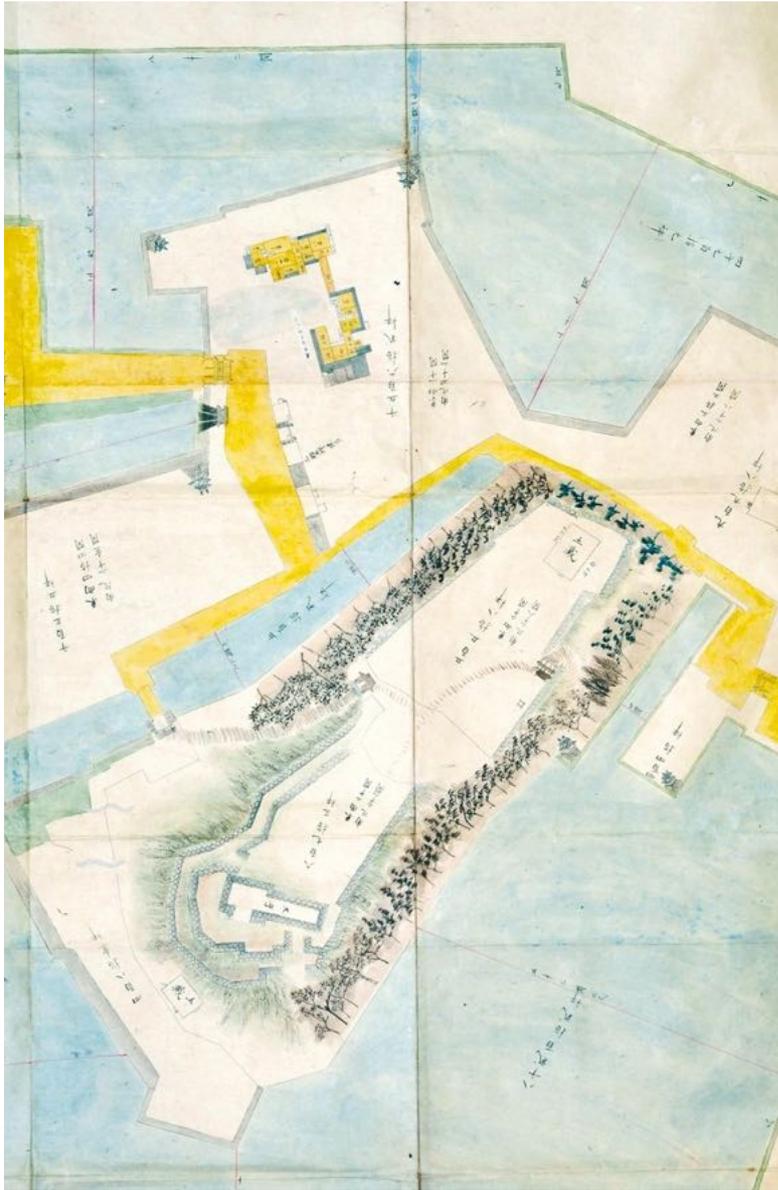
一	天守	八寸五分
二	西櫓	八寸五分
三	南櫓	八寸五分
四	西櫓	八寸五分
五	土櫓	八寸五分
六	花畑櫓	八寸五分
七	山下櫓	八寸五分
八	不明門	八寸五分
九	豊原門	八寸五分
十	石橋門	八寸五分
十一	東門	八寸五分
十二	西門	八寸五分
十三	物置	八寸五分
十四	鐘樓	八寸五分
十五	堀廻	八寸五分
十六	元懸	八寸五分
十七	回廊建物	八寸五分
十八	長屋	八寸五分
十九	本丸土蔵	八寸五分
二十	水手土蔵	八寸五分

本図は「明治7年2月23日書出す」と記載されている。堀割の数値は明治4年陸軍省城郭図と一致し、尺や寸まで記載するなど、更に数値が細かい。一方、堀割の形状は歪みが大きく、地形図としては不正確である。明治4年の売却対象となった建物が「一天守、二西櫓、……、十一東門、……、十四鐘楼、十五堀廻」と具体的に記載。二ノ丸御殿は「旧住居向並県庁跡」と記載。

本図によって明治初期に現存していた櫓、城門の名称が判明する。本図の原図は白道寺が所蔵し、それを福井県文書館が2分割で撮影（白黒ネガフィルム）し、そのプリントが閲覧可能となっている。複写申込により入手した図面写しをデジタルスキャンし、合成した。凡例の位置とその大きさは見やすいよう変更した。白黒ネガフィルムの精度の限界で、文字が解読しにくい箇所がある（特に、漢字の一、二、三など）。

³⁰ 出典：「丸岡城絵図」白道寺蔵

図7. 明治4年陸軍省城絵図と他の地図の対比



陸軍省城絵図城山部分拡大



現代図



1946年航空写真



凡例：赤（江戸時代）青（近代以降）

石積の年代区分³¹

明治4年測量図は正確であるため、現代図との整合性、航空写真との整合性が高い。3点の地図は同じ範囲である。幕末・明治初期の二ノ丸御殿の様子、間取りが判読できる資料は、この明治4年陸軍測量図が唯一である。城山の石垣は、天守南側下の弧状箇所は現存している。しかし、天守台の東側部分、城山の山腹の東側・北側・西側の石垣の多くは、現在、存在していない。戦後、天守復旧事業の際に、南側の山麓から城山山頂まで舗装道路が建設されており、このとき石垣の多くが撤去されたと考えられる。

³¹ 出典：『坂井市埋蔵文化財発掘調査報告書 丸岡城跡』（2021年、坂井市教育委員会）p69 第42図「現況石積整理図」 凡例の濃赤「自然石野面積石垣」はこのまま、薄赤「切石積（近代以降）」と黒「川原石練積（現代）」部分を青色彩色

図8. 江戸幕府 越前国丸岡城之絵図（城下町）³²



図9. 江戸幕府 越前国丸岡城之絵図（内堀周辺）



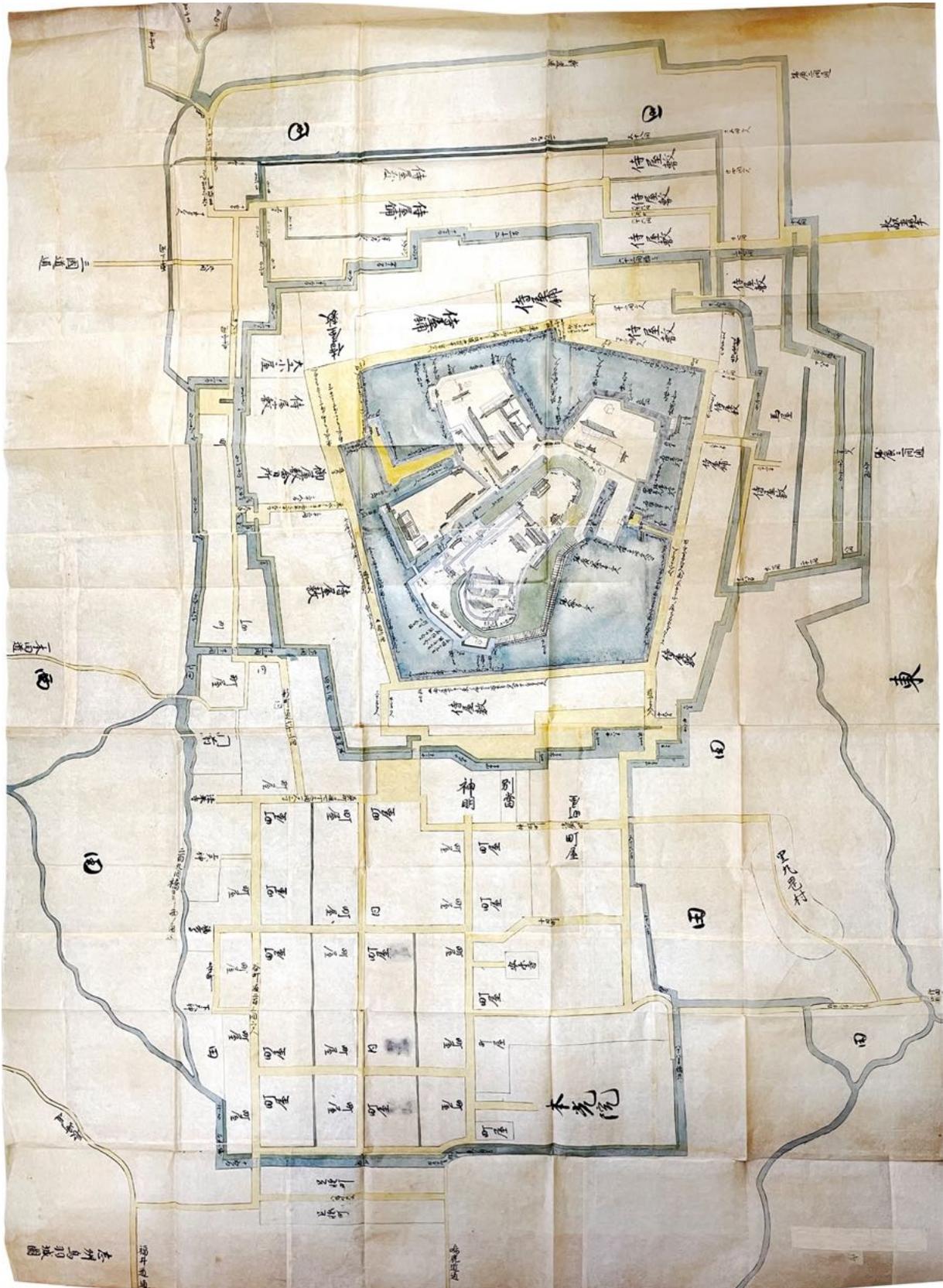
江戸幕府は、大名を統制するため、慶長 20 年（1615 年）一国一城令で居城以外の城を破却させ、城郭修理は幕府の許可とし、厳しく管理した。

「正保城絵図」とは正保元年（1644 年）、幕府が諸藩に作成を命じた城下町図であり、城郭内の建造物、石垣の高さ、堀の幅や水深など、軍事情報の記載が要求された。正保城絵図は幕府の機密資料であり、諸藩は閲覧できなかった。江戸幕府の記録では総数は 157 鋪、幕末の記録では 131 鋪。戊辰戦争で官軍が使用し、失われた絵図もある。

現在、国立公文書館は 63 鋪を所蔵し、昭和 61 年（1986 年）、国の重要文化財に指定された。昭和 51 年、復刻版『内閣文庫所蔵 正保城絵図』（絵図 15 鋪 注記図 10 枚 解題 3 冊）が出版され、利用可能となり、近年は国立公文書館デジタルアーカイブの中で公開されるようになった。城下町の調査・研究には第一級の史料である。現存 63 鋪の中に「越前国丸岡城之絵図」が含まれており、原図の大きさは東西 1 メートル 81 センチ、南北 1 メートル 90 センチ。丸岡城の内堀の形状、城山の石垣などは、かなり正確に図示されている。しかし、中堀や外堀、武家地・町人地の外周部では現代図と比較すると、歪み、ズレが存在する。

³² 出典：「越前国丸岡城之絵図」（『正保城絵図』1644 年/正保元年）国立公文書館デジタルアーカイブ）

図 10. 丸岡藩 越前丸岡城図³³



³³ 出典：「志州鳥羽城絵図と題する丸岡城下町絵図」しろはく古地図と城の博物館富原文庫 p77 赤文字「大工小屋」「御屋敷會所」「馬屋」加筆



内堀部分拡大



本図は、本多家時代末期（1680年代）の丸岡城図と推定され、印刷物による公開は、本計画書が初めてである。本図は「しろはく古地図と城の博物館 富原文庫」富原道晴氏が所蔵し、図名は「志州鳥羽城図」と記載されているが、実際は、越前丸岡城図である。丸岡城周辺整備基本計画書への掲載と写真撮影を、坂井市観光交流課から富原道晴氏に依頼し、許可された。撮影 越澤明。本図の時代判定について。本光院の記載とその場所から、本多家時代であることが判明する。また、1640年代作成の正保図と比較すると、内堀の外周の侍屋敷、町人地、土地利用、水路の記載などが詳細となっており、正保図よりも後の時代の図面である。

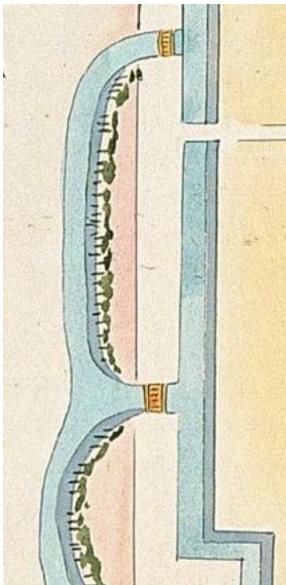
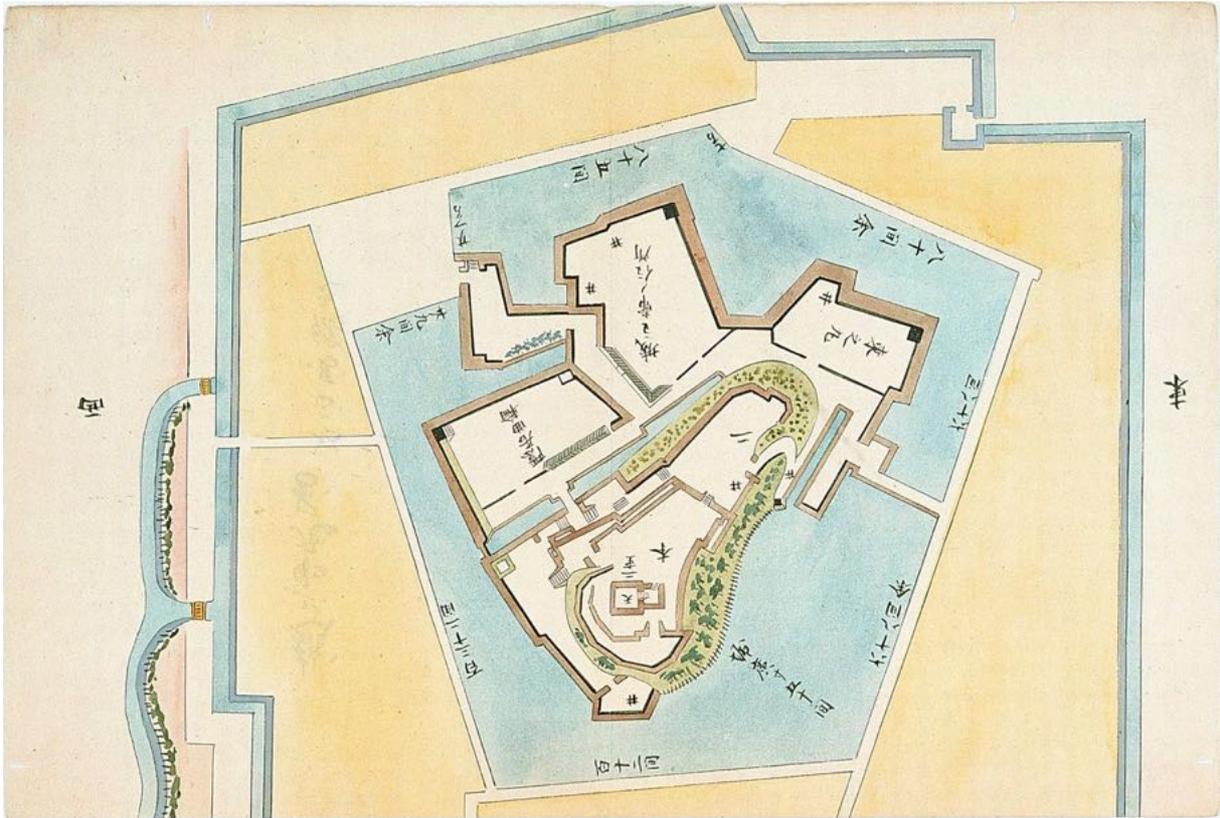
例えば、

- ① 三ノ丸より内側の道路、水路の長さや中の記載は、全体として正保図よりも詳細に、また、三ノ丸よりも外側、外周部の水路の位置は、全体として正保図よりも正確に描かれている。
- ② 内堀から北西部の位置に、「御屋敷會所」や「大工小屋」が記載され、内堀東部に「馬屋」の文字。正保図にはこのような記載は無い。
- ③ 國神神社の敷地について、「神明」と「別当」が記載され、神明社と別当寺を区別。
- ④ 町人地の背割り線は、図3 広島藩図では記載され、図8 江戸幕府正保図では記載が無い。これに対して、本図では、背割り線が二本線で図示され、水路（排水路と推定）と判明。
- ⑤ 搦手門付近の記載が詳細になっており、搦手門の両脇の堀に柵（敵の侵入を防ぐ）が図示されている。この柵は他の図では記載が無い。
- ⑥ 南三ノ丸・里丸岡口と竹田口門・本光院との間は、広島藩図から明らかなように、町人地の背割り線が入っておらず、当初は侍屋敷を想定していた。本多家時代に徐々に、町人地に転用されていった。

本図のような詳細な城下町絵図は、丸岡藩の藩政のために作成されたことは間違いない。城下町の防御、石垣の修理、侍屋敷の管理・拡張、町人地の管理・拡張、水路の管理などのための図面である。逆に言えば、他藩では、到底、作成が不可能な精緻な図面である。

ここからは推測であるが、本多家の改易後に、本多家が厳重に管理していた筈の詳細図が、何らかの事情で、写しが作成され、他藩・他家に流出したと考えられる。その際に、誤記なのか、意図して丸岡城図の名称を伏せたのか、不明であるが、志摩国の鳥羽城図という図名が記載された。なお、九鬼水軍の本拠地であった鳥羽城と本図（平野で平山城の城下町）が全く異なることは、江戸の軍学者は直ちに理解する。本図のような精密な城絵図を所有していると幕府から嫌疑がかかる可能性がある。そのため、本図の元々の所有者は親藩・譜代有力大名の関係者かもしれない。

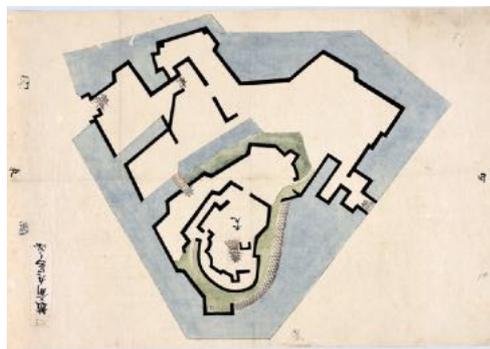
図 11. 加賀藩 諸国居城之図 丸岡城³⁴



土手部分拡大

加賀藩、広島藩、岡山藩など大藩では兵学（軍事学）のために諸藩の城絵図を蒐集した。加賀藩の「諸国居城之図集」（元禄期, 165 点）は有数のコレクションであり、金沢市立近世史料館のデジタルアーカイブで全点を公開している。加賀藩の丸岡城図に記載された堀割の長さは、かなり正確で、井戸も記入され、加賀藩の情報収集力を示している。内堀の外側は大幅に簡素化しているが、西側の中堀沿い、土手・植栽の描写は他の城絵図には例が無く、特徴といえる。

図 12. 松江市蔵 越前丸岡城図³⁵

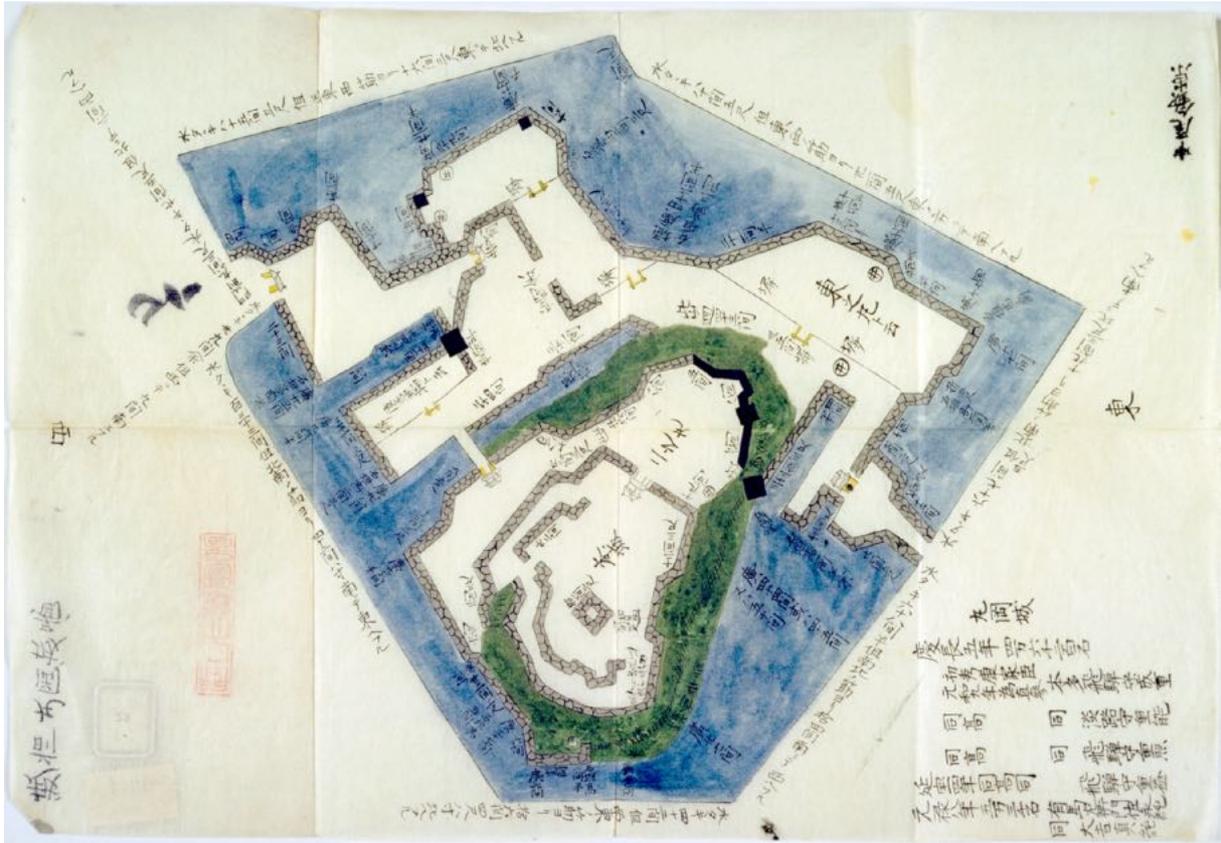


昭和 25 年～30 年の松江城天守解体修理の際に、松江市は松江城の資料を収集した。旧松江藩士の子孫が寄贈した「極秘諸国城図」は未開封、未調査のままであった。2019 年に松江歴史館から出版され、江戸城初期の天守、大阪真田丸の図などの新情報が含まれていることが新聞報道された。丸岡城については、簡素な城絵図となっており、石垣、櫓、井戸、城門、天守などを図示されている。

³⁴ 出典：「越前丸岡城図」（『諸国居城之図集』1692 年/元禄 5 年）金沢市立玉川図書館蔵

³⁵ 出典：「越前丸岡之城」（『極秘諸国城図』）松江歴史館蔵

図 13. 岡山藩 越前丸岡城図³⁶



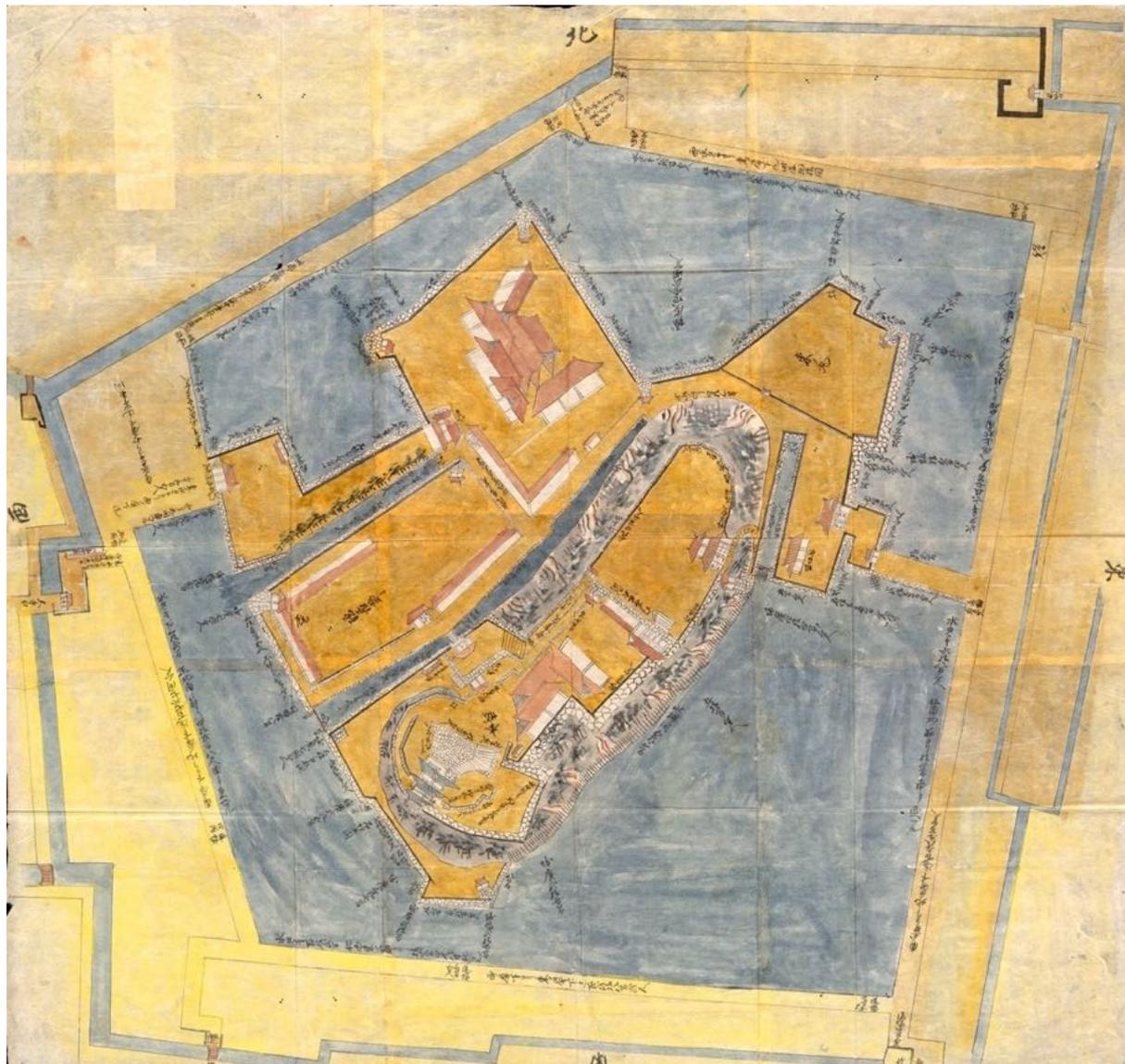
城山部分拡大

岡山藩池田家の文書は岡山大学附属図書館が所蔵し、デジタルアーカイブが整備済みである。絵図は「岡山大学附属図書館所蔵の池田家文庫絵図一覧」で検索できる。城下図は517点あり、「備前国岡山城石垣破損之覚様式控」、「秀吉公伏見御在城之図」などの他に、他藩の城絵図も多数蒐集している。池田家文庫の越前丸岡城図は、縦横は28.1×40.6cm、城山の緑色、水面の青色が独特で、

岩絵具に特徴がある。図の年代は、丸岡藩有馬家2代藩主真純（1703年～1733年）の記載があることで判明する。内堀の各区分、城山の石垣の長さが細かく記載され、「水タタキ（水叩き）××間」の意味は水面ぎりぎりまで測った長さと思われる。

³⁶ 出典：池田家文庫「越前丸岡城図」岡山大学附属図書館蔵

図 14. 福井藩 越前丸岡城図³⁷



二ノ丸御殿部分拡大

福井藩松平家の文書資料は松平文庫として福井県文書館、福井県立図書館が所蔵し、主な資料は「デジタルアーカイブ福井」として公開されている。福井藩の越前丸岡城図は、原図の大きさは 83×79cm。内堀の水タタキの長さ、石垣の長さなどが記載されている。本図に描かれた二ノ丸御殿は、図 4（及び図 7）と比較すると、コの字型の向きが逆である。図 14 の二ノ丸御殿は実際の間取りを反映した絵であると仮定すると、幕末までに御殿の建て替えて、間取りが変化し、御殿は小規模になったと推定できる。

³⁷ 出典：松平文庫「越前丸岡城図」福井県文書館保管

丸岡城周辺整備基本計画

策 定 2021 年（令和 3 年）8 月
発 行 坂井市 産業政策部 観光交流課

住 所 〒919-0592 福井県坂井市坂井町下新庄 1-1
電話番号 0776-50-3152
ファクス番号 0776-68-0440
メール kankou@city.fukui-sakai.lg.jp



観光交流課ウェブサイト
